

ものありとあぢはひえれる人だに、世にいとまれになりゆきしなるべし。さばかりおとろへは
てけむを、葉上僧正四〇 榮明惠上人とて、これもかれもすぐれたる人のおなじ世に出逢れて、とも
にこれをこよなきものとめでたふとばれしより、ふた、び世になべてもてあつかうやうにひ
ろごりて、かくは今の世までにたえせぬものと成こし事、ひとへに此ひじりのいさをによりて
なりけり、まかありしはじめは、かの僧正もろこしより、此種をおほくもて傳へられて、建久の二
とせといふに、筑紫まで歸りつきて、背揮山といふ所に、こゝろみにうゑそめられしぞ。岩上茶と
いふもの、はじめなりける。〇中この僧正いまだみやこにおはしけると、梅のをの明惠上人
法問のために、建仁寺にまたくおはせしかば、これを贈り給へる事ありき、そのかみ梅尾にて、
いかなるものぞとくすしに尋ねとばれしに、まかゞの能おほかれども、わが御國には、をさを
さある事なしとこたへしかば、さはめでたきものよ、おこなひつとむる法師ら、かならずのみて
たすけおほかりぬべしとて、其種をか僧正よりもとめえうして、はじめ梅尾にうゑそめら
れしよし上人の傳記にみゆ、このつたへにても、其世のおもむきはまられたり、さてのち宇治の
里におほしたてしよりなむ、あめのしたにたえてたぐひなきものはいできそめたるなりける。

〔凌雲集〕御製〇嵯峨 廿二首〇中

秋日皇太弟池亭賦天字 五言

玄圃秋云肅、池亭望爽天、遠聲驚旅雁、寒引聽林蟬、岸柳惟初口、潭荷葉欲穿、肅然幽興處、院裏滿茶煙、
夏日左大將軍藤冬嗣閑居院

避暑時來間院裏、池亭一把釣魚竿、廻塘柳翠夕陽暗、曲岸松聲炎節寒、吟詩不厭搗香茗、乘興偏宜聽
雅彈、暫對清泉滌煩慮、況乎寂寞日成歡、
從七位上守少內記滋野宿禰貞主二首